

地域人材の育成と地元就業を支援する



かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

第7号
平成30年3月

かごしま学卒者
地元定着促進協議会

「第2回企業・自治体等との懇談会」の開催

【鹿屋体育大学】

～企業と本学教職員・学生との意見交換会～

鹿屋体育大学では、COC+推進事業計画をより円滑に推進し、本学学生へ向けた「鹿児島県で就業することの魅力」を発信するための情報収集と環境作りを目的に、関係者を招いての懇談会を実施しているが、本年度は、昨年度の大隅地区の医療関係従事者に続き、鹿児島県を拠点とするマスコミ業（新聞社・放送業）に従事する方々を招聘し、実施した。

平成30年1月23日、鹿児島県内4企業（株式会社南日本新聞社、株式会社南日本放送、日本放送協会鹿児島放送局、鹿児島テレビ放送株式会社）の人事・総務部門等の担当者を招き、本学からは教職員9名、マスコミ業界への就職を希望する学生5名（3年生4名、2年生1名）も交えての積極的な意見交換を行った。

○実施概要

はじめに金久博昭理事・副学長より開会挨拶があり、次に前田博子教授（キャリア形成支援室長）より本学の「COC+事業の取り組み及び就職実績」等の説明があった。

続いて、各企業からそれぞれの業務について説明があり、その中で、日頃からいかに「鹿児島の魅力」を県民に伝えるために創意工夫を凝らし業務を行っているかが手にとるようにわかり、参加した学生も必死にメモを取りながら熱心に聞き入っていた。

その後、学生からの質問対応も含めた自由懇談に

入り、各企業の実際の業務内容やインターンシップについて等の話題について熱く討論した。

最後に原田耕蔵理事（社会連携担当）の挨拶により閉会した。

懇談会終了後の学生からは、

「マスコミの仕事は、陰で支える仕事もとても多いということを知った。」

「実際に直接話を聞いたことで、自分自身の考えを深めることができた。参加して良かった。」

「マスコミ業界が少しずつですが明確なものとなりました。」

という前向きな意見や新たな発見が見られ、業務内容の理解と鹿児島県内のマスコミ企業への就職を選択肢として加える良い機会になったものと思われる。

鹿屋体育大学では、COC+推進事業をさらに加速させていくために、来年度も、新たな業界関係者を招聘し、鹿児島県内の企業や自治体等との連携強化をより一層図り、本学学生へ向けた「鹿児島の魅力」の発信に注力していきたいと考える。

○謝辞

「第2回企業・自治体等との懇談会」実施にご協力いただきました株式会社南日本新聞社、株式会社南日本放送、日本放送協会鹿児島放送局、鹿児島テレビ放送株式会社（順不同）の関係各位に御礼申し上げます。



懇談会の様子



懇談会終了後、積極的に質問をする学生

「フィールドワークをベースにした 地域が求める人材育成プログラム」

【鹿児島国際大学】

鹿児島国際大学では、社会性・国際性を持ち、地域に立脚した意思形成力とコミュニケーション能力を備えた学生を育成することを目指してCOC+事業に取り組んでいる。併せて、文部科学省の地（知）の拠点大学（COC）認定校として、独自のプログラム①フィールドワークを通して地域の課題に向き合い、地域に対する愛着を育む「地域人材育成プログラム」、②英語を使って地域に貢献したい学生向けの「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の二本柱により、鹿児島に関心と愛着を持ち、地域社会に貢献できる行動力のある人材の育成、ひいては地元定着の加速化、地元就職率の向上を目指している。

以下、フィールドワークの取組について紹介する。

○自治体との連携によるフィールドワーク

鹿児島市、日置市、阿久根市、垂水市、南大隅町、西之表市、大和村の各自治体との連携協定に基づくフィールドワークに全学的に取り組んでいる。

〈平成29年度取組の一例〉

- ・喜入旧麓地区における景観保全に関する取組み
- ・鹿児島市のごみの減量化・資源化の促進
- ・中央町19・20番街区再開発ビル工事に伴うにぎわい創出事業
- ・廃校（ハイスクール）サテライトゼミ
- ・インバウンド懇話会（観光の新ルート開発の模索）
- ・小松帯刀を育んだ吉利の歴史保存・吹上地区観光スポット（ルート）整備事業
- ・垂水市就地拡大プロジェクト事業（地方創生時代のマーケティング）
- ・阿久根市空き店舗活用チャレンジショップ事業（阿久根市、鹿児島相互信用金庫との共同事業）



喜入（スタンプラリー）



阿久根（チャレンジショップ）

○「新入生ゼミナール」でのフィールドワーク

～学部学科単位で1年次実施～

大学内での講義に終始することなく、実際に地域に足を運ぶことによって、地域の魅力を発見し、自己を見つめ、大学で学ぶこと、社会のなかで働くことの意味について考える機会を持てるよう学科単位でのフィールドワークを実施している。

平成29年度は、「明治日本の産業革命遺産としての仙巖園、尚古集成館訪問研修」「枕崎有機紅茶の生産現場研修」「障害者を対象とした福祉複合施設の見学研修」など経済・経営・社会福祉・国際文化学科の4学科による7つの取組みが行われた。



新入生ゼミナール・フィールドワーク

○委託事業や官学協働プロジェクトなどの例

- ・ふるさと水土里の探検隊

鹿児島県との官学協働プロジェクトに関する覚書に基づき、集落点検やワークショップ、住民意識調査等を通じて中山間地域の課題解決や解決策の提案を行っている。

- ・始良市商工業者景況調査事業

大型店開業の影響を受ける始良市内商工業者への景況調査等を行い、課題やニーズ等を把握し、商店街等を中心とした商工業者の活性に繋がる施策を見出し提言を行っている。



中央町（にぎわい創出）



垂水市（就地拡大プロジェクト）